

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 9 回 定例委員会
日 時	令和3年9月24日 自 15時00分 至 16時37分
場 所	第2庁舎1階会議室
出席委員	教 育 長 五十嵐 充 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹 委 員 高 橋 憲 司
欠 席 委 員	
会議録署名委員	佐 藤 郁 子 委員
会議録作成職員	総務企画課主事 田 中 真 奈
事務局職員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 生 涯 学 習 課 長 林 崎 竹 亜 学 校 給 食 調 理 場 長 杉 本 貴 浩 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 総 務 企 画 課 主 事 田 中 真 奈
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1 委員会開会の宣言（五十嵐教育長）・・・15時00分
2 会議録署名委員の指名（佐藤郁子委員）
3 会議録の承認
（五十嵐教育長） 第8回定例教育委員会（令和3年8月23日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
（一同「はい」の声）
-会議録どおり承認-
4 教育長の報告
（五十嵐教育長） それでは、9月に入ってから行事等について報告させていただきます。
2日から9日までの日程で、第17回市議会定例会が開催されました。一般質問では22人の議員が質問に立ち、教育関連では10人の議員から質疑がありましたが、そのうち3つの項目について紹介をします。まず、「学校施設のエアコン設置」については、苫小牧は寒冷な気候であることから、そして財源確保の難しさなどの面からも、エアコン設置の優先順位は高くない旨、答弁しています。次に、「性教育」については、発達の段階に応じて性に関する正しい知識を身に付けることは重要であるとの認識について、答えています。最後に「不登校問題」については、今年度から取組を始めたモデル校の検証なども踏まえて、不登校の児童生徒にどのような支援が望ま

<p>しいのか、しっかり検討することとしています。また、教育委員会委員の齋藤智子さんが11月21日付で任期満了となりますが、後任者として齋藤委員が再任されることについて2日の本会議で議会の同意を得たことを報告いたします。齋藤委員には、本日の会議終了後にご挨拶をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願います。</p>
<p>9月13日から30日まで、北海道を対象区域とする緊急事態宣言が延長になりました。このことを受け、本日予定していた拓勇小、緑小の学校訪問は、中止としたところです。学校は、2学期がスタートして6週目に入っています。これまでに、児童生徒のコロナ感染から、2つの小学校、2つの中学校で学級閉鎖、学年閉鎖を行いましたが、14日からは全ての学校で学習活動を再開しています。現在、道内、市内の感染状況も落ち着いてきており、政府では、緊急事態宣言の解除も検討されているところですが、まだまだ油断することはできません。</p>
<p>16日にオンライン開催された校長会議では、子どもたちの命と健康を守るため、これまで同様、学校における基本的な感染症予防対策について徹底してもらうことと併せて、学校祭、学習発表会などの開催にあたっては、分散、縮小など配慮や工夫が必要なことが多い中、昨年からの経験も生かしながら、子どもたちの学びを継続していくという観点で、充実した教育活動の展開をお願いしています。</p>
<p>9月4日、令和4年度校長採用候補者選考の筆記試験が胆振教育局で行われました。面接は10月下旬に行われます。今年度末に定年退職となる校長は、胆振管内全体で18人、苫小牧市内では4人、小学校3人、中学校1人です。市内からの受験者は、23人で、全て男性です。女性の申込者がいなかったのは残念ですが、来年度以降に期待したいところです。受験者には、本市教育大綱の基本理念である「未来の社会をつくるひとづくり」を実現するという強い志をもって、面接に臨んでほしいと思います。</p>
<p>次に、外国語教育の推進に欠かせないALTの増員について、7月の定例教育委員会でその経過を報告していましたが、未配置であった5名について、今月に1人、</p>

1 1月に4人が苫小牧に来ることが判明しました。コロナの影響でなかなか配置の目処が立たず苦慮していましたが、今年度中に各中学校区に配置できることになりましたので、ご安心ください。

最後に、平成24年から昨年までの2期8年間、市の教育委員会委員をお勤めいただいた植木忠夫さんに対し、北海道都市教育委員会連絡協議会から在職功労者として表彰状が授与されます。27日に私から伝達いたしますので、ご報告申し上げます。

報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 令和3年度全国学力・学習状況調査結果の考察と公表について

(教育部池田参事) -令和3年度全国学力・学習状況調査結果の考察と公表について説明-

(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(岡田委員) 国語の平均正答率が全国平均とほぼ同等ということですが、どういったことがこのような成果に繋がっているのか、把握しておりますでしょうか。

(教育部池田参事) 小学校、中学校ともに、数値的に全国平均に近づいてきている傾向があります。それぞれの現場の先生方がしっかりと授業改善をしているということだと思います。特に苫小牧市の統一学力テストの結果の時にもお話しましたが、いろいろな条件がある中で自分の考えをしっかりとまとめる、限られた字数の中で表現する、そのように考えたり表現したりする力を、それぞれ50分の授業の中で身につくよう改善していっているということが、結果的に数値にも表れている成果ではない

かと思えます。
(五十嵐教育長) 岡田委員、よろしいでしょうか。
(岡田委員) はい、ありがとうございます。
(五十嵐教育長) 他にいかがでしょうか。
(高橋委員) 4ページの小学校の調査結果の算数が、後半の設問にいくと正答数が急激に落ちていますが、この設問はどのような設問だったのでしょうか。
(教育部池田参事) この正答数というのは、15問目、16問目の設問に回答できなかった結果ではなく、16問あるうち、16問正答した人数ということで、全国の平均はひし形の折れ線、北海道の平均が三角の折れ線、苫小牧市は棒線となっています。上位層、16問、15問、14問正答している人数が、全国ではこれだけいますが、苫小牧市は低めということがわかります。それと全く逆のことが、3問、4問、5問となかなか正答できない人数が全国より多めとなっています。苫小牧市の傾向としては、多く回答できる人数が少なく、少し回答ができない人数が多いということがわかるグラフとなっています。
(高橋委員) わかりました。ありがとうございます。
(五十嵐教育長) その他、ございますか。
(齋藤委員) 今回の調査によって、苫小牧市の伸びていく部分と同時に課題が見つかったのかと思えます。伸びている部分については、このまま継続していけば良いなと思えます。気になった点が1点ありまして、全体的な傾向の一番下に、1日当たりのテレビゲームの利用時間が全国平均を上回っているとあります。テレビゲームというのは、小中学校のお子さんにとって本当に魅力的で、中毒性もあるものだと思います。私自身もですが、他のお母さん方もテレビゲームの向き合い方について、とても苦労していると思えます。どこの地域においても、同じような問題を抱えていると思えますが、苫小牧市だけが全国平均を上回ってしまったというのは、こういった点が課題なのかと思いました。北国だから、どうしても外より家にいる時間が長く、遊ぶ時間が多くなるため、利用時間が上回っているのか、何が問題であると捉えていら

っしやいますか。
(教育部池田参事) 小・中学生がコンピューターゲームや、スマートフォンを使用している時間ですが、確かに多いです。それも問題ではありますが、1日24時間のなかでスマートフォンやゲームに時間が費やされて、違う時間が短くなっているというのも問題となっています。今回の質問紙のなかに家庭での約束について、質問している部分があり、家庭でのスマートフォンなどの使用方法について、ルールがないと答えている人が一定数いるというのも、苫小牧市の特徴だと思います。13ページの設問4「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。」という設問があり、苫小牧市は「約束はない」という割合が結構、多かったです。つまり、時間もそうですが家庭でのスマートフォンやゲームをするルールがないから多くなってしまうということが問題なのではないかと思います。今後、いろいろとご家庭へ「ほ・む・す・く」などを活用し周知しながら情報発信をしていきたいと思っています。
(齋藤委員) わかりました。ありがとうございます。
(五十嵐教育長) 利用の約束はいつごろ作成したのですか。
(教育部池田参事) 「とまこまい学びの3か条」を平成27年、「情報機器利用の約束」を平成31年に作成しています。
(五十嵐教育長) そのようなルールを作成してから、5年ぐらい経っているということですね。13ページ設問4の「約束はない」という割合が平成29年、令和2年、令和3年で少しずつ割合が増えています。ルールを作成し、周知をしているけれども、5年ほど経ち、少し徹底されなくなりつつあるように見えるのですが、いかがでしょうか。
(教育部池田参事) 当初、平成27年に作成した際に、周知しようとしていた思いが若干、薄れているところもあるかもしれません。そういう事にともない、家庭の意識が低くなっていることもあると思いますので、改めて、それぞれの家庭で約束を作ってもらえるような発信をいろいろな形でしていきたいと思っています。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。他にいかがでしょうか。
(岡田委員) 携帯電話やスマートフォンに関して、中学校でNTTと連携した、携帯電話・スマートフォン教室という啓発があると思いますが、ゲームに関して、お子さんたちの成長期に長時間使用することが、勉強以外に本人たちの健康上の害や成長に関する影響など、弊害を伝えるようなことは行われているのでしょうか。
(教育部池田参事) 全学校では、それぞれの教科で、特に保健体育や家庭科で1日の過ごし方、またはゲームやスマートフォンが身体に及ぼす影響を学習しています。学校によっては、講師等を招いて特別な講義を行っている学校もあります。
(岡田委員) わかりました。
(五十嵐教育長) その他、いかがでしょうか。
(佐藤委員) 小学校ですと11ページ、中学ですと26ページに書いてあります、「規範意識・自己有用感」という項目があります。言葉のことで恐縮ですが、これは最近言われている、自己肯定感という捉え方で、まずよろしいのでしょうか。
(教育部池田参事) 自己有用感が自己肯定感とイコールであるかは、別としまして、自己有用感と自己肯定感は同じ方向であると思います。つまり自分が必要とされている、または自分のことをプラスに考えているかという、同じ方向の意味であると思います。
(佐藤委員) わかりました。11ページと26ページに考察で、わかりやすくまとめていただいています。26ページの中学校の考察で、否定的な回答をした割合が40、30パーセントと非常に高い否定率が出ています。11ページの小学校の考察では、具体的な数字がありませんのでグラフから想像するのですが、中学校のこの結果が、1つの現状として捉えることができると思います。今の小学校の結果が、教育の影響として、数年後に中学校の考察に現れてくるという調査項目であると考えられますが、今後も考えられる調査項目として受け取ってよろしいでしょうか。
(五十嵐教育長) 今後も、調査項目として残っていくのかということですね。
(佐藤委員) はい。規範意識だとか自己有用感、要するに自分はこうだけれどもと

<p>いう調査に対して、周りから評価する項目ですので、それによって1つの像ができて</p>
<p>くると思います。中学校は今、このような像だけれども、今年考査されている小学校</p>
<p>の結果が数年後にはどうなるのかという追跡調査ができる項目だと思います。規範意</p>
<p>識や自己有用感というのは自分がイメージすることですよね。答えがはっきりわかつ</p>
<p>ているものではなくて、教育としては、1つのイメージをつくるという問いだと思っ</p>
<p>のですが、これからも、継続して続くとして考えてよろしいでしょうか。</p>
<p>(教育部池田参事) この項目については、平成30年よりも前からずっと継続して</p>
<p>子どもたちに聞いている設問です。今後も、引き続き設問を続けていくことが予想さ</p>
<p>れます。</p>
<p>(佐藤委員) ありがとうございます。</p>
<p>(五十嵐教育長) その他、いかがでしょうか。</p>
<p>(高橋委員) 今おっしゃられた、「自分には、よいところがあると思う。」という</p>
<p>考え方として、否定的だからだめでもないですし、肯定的すぎても良いこともない</p>
<p>という、すごく難しいところを、どのように捉えてどのような方向性にもっていこうと</p>
<p>いう考え方は、教育委員会としてあるのでしょうか。</p>
<p>(教育部池田参事) 非常に難しいのですが、例えば11ページの設問6「自分には、</p>
<p>よいところがあると思う。」と、自己評価をします。あまり何も考えず、「ある」と</p>
<p>回答する子もいれば、しっかりと自分のよいところはあると思うのだけれども、人と</p>
<p>比べてだとか、自分の今までのレベル、さらに今後、延ばしたいレベルを考えるから</p>
<p>こそ、「あまりよいところはない」と控えめに謙虚に回答する子もいますので、一概</p>
<p>によいところがあるから良いだとか、そういうことでもないと思っています。また、</p>
<p>謙譲の美德と言いますか、やはり今の日本には残っていると思ひまして、控えめに謙</p>
<p>虚にということがあるのではないかというところも踏まえて、この数字は、自己有用</p>
<p>感というのを知る上の1つの資料になります。様々な現場で教師と子どもたちの触れ</p>
<p>合いだったり、いろいろなまた違ったキャリア教育の資料だったり、そのようなこと</p>
<p>を総合的に考えながら、自己有用感、自己肯定感を育てていけたらと思っています。</p>

<p>(高橋委員) ありがとうございます。おっしゃられたことそのままだと思いますが、</p>
<p>お聞きしたかったことが、教育委員会としてこのことに関する考え方で子どもたちを</p>
<p>このような方向性にしたいだとか、教育者としての考え方があるのかないのかを知り</p>
<p>たかったです。子どもによっては、言葉遣いのひとつでへこんでしまったり、逆に言</p>
<p>うと同じ言葉を使っても頑張るとなる子もいれば、一人ひとり違うのを承知している</p>
<p>中でのお話ですが、成長させるということに関しての定義のようなものが定まること</p>
<p>がないと思っています。結局、児童生徒と先生の関係というのは個人個人の関係性に</p>
<p>なってしまいますので、そこにこういうものが判断基準と示すのはなかなか難しいの</p>
<p>かもしれませんが、私が聞きたかったのは、学校として教員に対して全体の方向性と</p>
<p>いうのはあるけれども、このようなことに関してはこのようにしましうだとか決ま</p>
<p>り事があるのか知りたかったです。</p>
<p>(教育部池田参事) 非常に難しい質問ですが、決まり事があるか無いかというと、</p>
<p>ありません。ただ、自己有用感だとか自己肯定感というのは自分の夢だとか目標に向</p>
<p>かっていくためのエネルギーになるものではないかと思っています。つまり、自己有</p>
<p>用感を高めながら、子どもたちの夢だとか目標に繋がる努力をさせていく、そういう</p>
<p>事を小学校も中学校もキャリア教育として一貫して行っています。そのエネルギーに</p>
<p>なる部分が多ければ多いほど良いかと思っていますが、そのエネルギーがどれくらいあ</p>
<p>るのかということを知る物差しがありません。ですから、このようなデータも1つの</p>
<p>資料としながら、または、いろいろな教育活動全体を通して、子どもたちの夢や目標</p>
<p>に近づく努力をそれぞれの学校でそれぞれの教育者が行っていく、そのような現状で</p>
<p>はないかと思っています。</p>
<p>(五十嵐教育長) 今の関連で私からもお尋ねしたかったのですが、今回の質問紙の</p>
<p>項目の中で、担任の先生が自分の受け持ちの児童生徒が何問正解できたかというのは、</p>
<p>一目瞭然でわかると思います。ただ、質問紙の項目、1つ1つの問いに対してこのよ</p>
<p>うに答えていて、担任の先生が意外に思う回答をしているといった場合、個別の対応</p>
<p>として、この質問にこのように答えているけども、理由はどうしてですか。と逆に先</p>

生から問いかけた場合、その際の返事が、先ほど池田参事が言われたように、いろいろなことを考えて、他の人との比較、あるいは自分の理想と比較して少し否定的に答えましたと言ったとすると、その部分をきちんと聞き、それであればそこまで悲観的に思わなくてもいいのではないか、というようなやり取りができる余地はあるのでしょうか。

(教育部池田参事) 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙というのは、いろいろな教育活動のごくごく一部であります。担任の先生は、いろいろなアンケートや調査の他に、日常の触れ合い等を通して、子どもたちの思いだとか願いや現状を把握しています。その中の1つの資料として、例えばこのデータがあるのではないかと思います。プラスアルファのいろいろな部分を踏まえて、確実に子どもたちと接していると思いますので、そのような余地はあって然るべきだと思います。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。委員の皆様から他にございませんか。

(一同「なし」の声)

(五十嵐教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、議案第1号は原案どおり決定いたしました。

第2号 令和3年度苫小牧市文化賞・文化奨励賞の選考について

(五十嵐教育長) 議案第2号につきましては人事案件でございますので、教育委員

会会議規則第 21 条の規定により秘密会とし、この場合、会議の日程の最後に審議を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、議案第 2 号を秘密会とし、日程の最後に審議を行うことに決定いたします。

6 報告・協議

報告(1) 令和 2 年度苫小牧市学校給食会決算書について

(学校給食調理場長) -令和 2 年度苫小牧市学校給食会決算書について説明-

(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(一同「なし」の声)

(五十嵐教育長) ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

報告(2) 教職員の人事異動に係る内申について

(五十嵐教育長) 報告第 2 号につきましては人事案件でございますので、教育委員

会会議規則第21条の規定により秘密会とし、この場合、会議の日程の最後に審議を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、報告第2号を秘密会とし、日程の最後に審議を行うことに決定いたします。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) これより、先ほど秘密会と決定しました議案第2号及び報告第2号について審議をいたします。関係者以外は退席をお願いいたします。

(五十嵐教育長) それでは、委員会を再開いたします。なお、議案第2号につきまして原案どおり決定し、報告第2号につきましては報告どおり終結しましたことを申し添えます。

7 その他

(五十嵐教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何かございますか。

(一同「なし」の声)

(五十嵐教育長) 冒頭の教育長報告の中でも、9月市議会定例会において、

齋藤智子委員の再任に係る議案について、議会同意が得られた旨をご報告申し上げたところですが、これにより、令和7年11月まで委員任期が更新されることになりました。ここで、齋藤委員から2期目の抱負をお願いしたいと思いを思います。

(齋藤委員) 2期目も教育委員を勤めさせていただくことになりました。1期目は無我夢中で勤めて参りまして、みなさんを不安にさせてしまった部分も多々あったかと思いますが、1期目で学んだことを糧にして2期目も慢心することなく、苫小牧の教育行政に力を尽くしたいと思いを思いますので、よろしくお願いをいたします。

(五十嵐教育長) ありがとうございます。よろしくお願いをいたします。

8 委員会閉会の宣言 (五十嵐教育長)・・・16時37分